

## 昇級試験審査概要

創作部門（新設） 推薦取得者（詳細は表紙③・④）

第一部 六段以上（九月号の段位）

五名の審査員による合同審査

準推薦は四〇〇点満点中三九九点で推薦に合格

推薦格は三九〇点満点中三八八点（平均点七八点以上）で

準推薦に合格

正教授以下の段位では合格点に達した者は一階級、審査員

全員が合格点を与えた者は二階級昇格

\* 六段格以下の者も受験可（受験料は第一部料金）

各部門分担審査

優秀作品は最高三階級昇格

第二部 六段格以下（九月号の段級）

第三部 初段格以下（ 〃 ）

五名の審査員による分担審査

優秀作品は最高三階級昇格

\* 第二部は初段格以下の受験可（受験料は第二部料金）

毎月競書を出品している方は是非受験して下さい。

手本・添削希望者は書苑会事務局へお申込下さい。

その他の事項は裏表紙の昇試規定を参照の事。

## 毛筆部「推薦」対象 創作部門について

昨年度より新設した「創作部門」には、多くのすばらしい作品が寄せられ、推薦合格者の方々の実力、表現力の豊かさに感動しています。今回は第四回となりますが、より多くの方々の出品を期待しています。

自ら題材を選び（感銘を受けた詩句、表現したい文言など）、自運での作品づくりに取り組んでいただきます。推薦合格までに養われた力を大いに発揮し、活気溢れる部門となることを願います。

毛筆部昇級試験審査員による審査を行い、優秀作品を写真掲載します。

※最優秀作品は随意参考手本として掲載します。

※審査結果は研究部の成績と併せ、同人・準同人への推挙の参考とします。

書苑会会長 高橋 香樹

### 《要項》

自運作品（手本によらない）

対象 漢字・随意・かな、いずれかの部門での推薦合格者（合格部門に

出品可）（随意は推薦合格した作品が「漢字作品」か「かな作品」

かで判断）

同人・準同人の出品も歓迎

題材 漢詩、漢文、古典、短歌、俳句、現代詩、現代文など

構成・文字数自由（自詠の短歌、俳句も可）

（過去の書苑掲載作品は参考手本としない。同一字句の自運は可）

作品の大きさ 半切以下

出品料 漢字・かな部門 大（半切、半切½など） 三、〇〇〇円

漢字・かな部門 小（半紙、半懐紙など） 二、三〇〇円

（漢字かな交じり書は「漢字」「かな」どちらの部門での審査を希望するか選択）

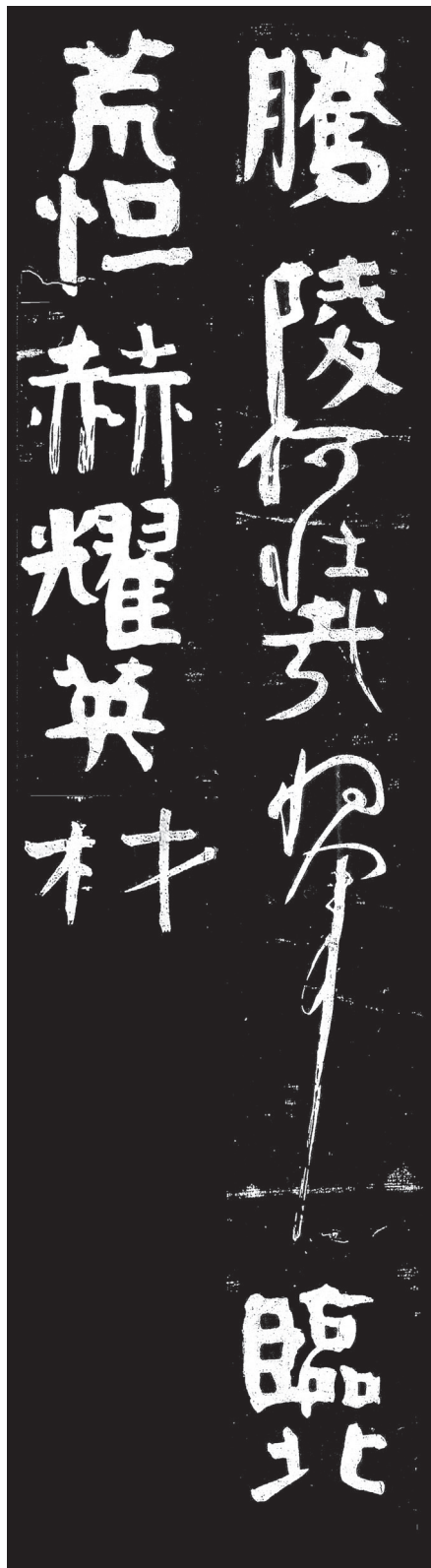
提出締切 9月22日

創作部門用出品票に必要事項を記入の上、作品ごとに袋に入れ提出  
作品返却希望者は返却用封筒（宛先記入、切手貼付）を同封のこと

※出品票、出品申込用紙は8月号に同封。

忠義堂帖  
ちゅうぎどう

顔真卿  
がんしんけい



騰陵何壯哉。將軍臨北荒。桓赫耀英材

※昇試随意部参考(半紙・条幅)としてもご活用下さい。抜粹可。

一字書(九月二十二日締切)

課題

洪

- (1)書体自由
  - (2)半紙タテ ※ヨコは中止
  - (3)落款は余白に調和を工夫し書き入れる
  - (4)出品料 四四〇円
  - (5)バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
- 一字と記入 段級は無記入

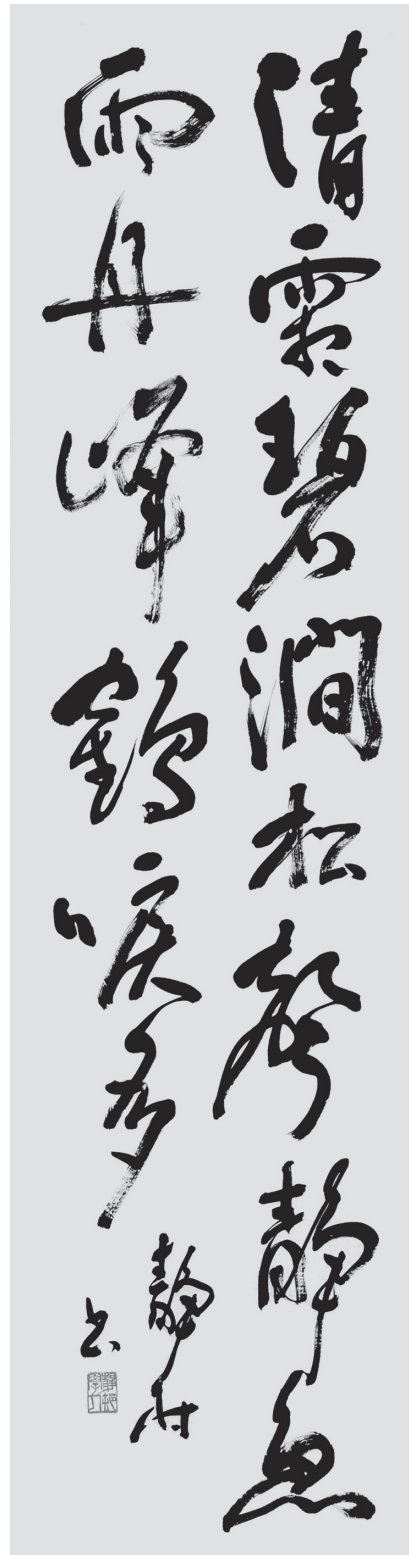
※七月号一頁「注目の人と書」訂正

正 西田幾多郎  
誤 西田幾太郎

人名に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

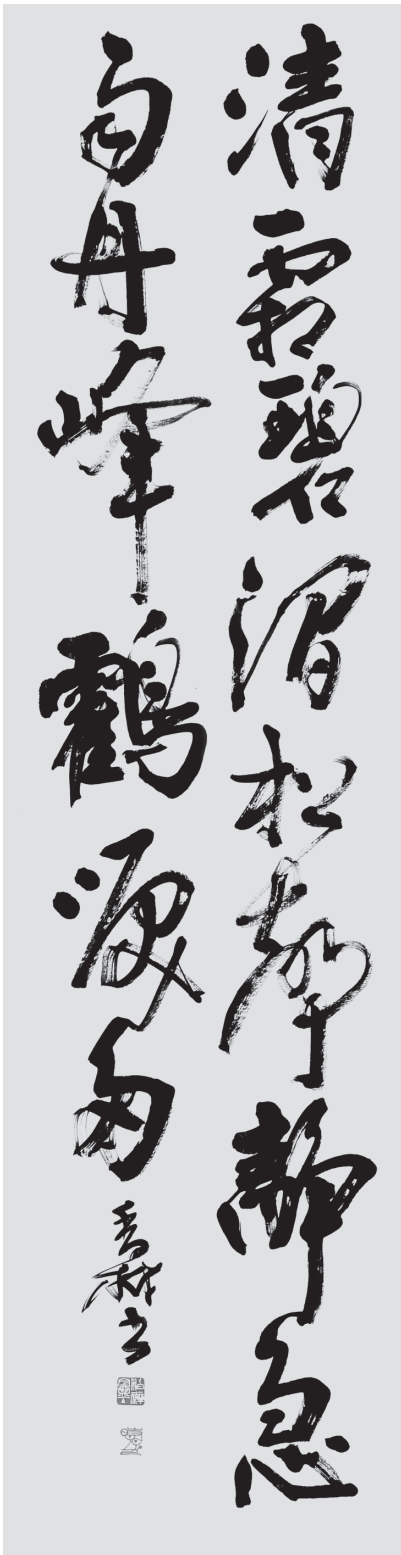
A  
鈴木静村先生書

清霜碧澗松聲静 急雨丹峰鶴唳多 (吳兆燾)  
清霜碧澗松声静かに、急雨丹峰鶴唳多し。



B  
高橋香樹会長書

筆は兼毫筆二号。清霜碧澗松、墨量多く、碧澗に強め。松 小さくとも強調。聲静急雨丹峰、聲 墨量たっぷりの感。静 末画長く急に連綿。急雨 下部三点リズム的。雨 二画目受け変化、末画から丹に連綿。峰 旁“丰” 脈絡注意。鶴唳多、鶴 一般形。唳 行書体で多へ連綿。末画直線味で締める。



今月の課題は、画数の多い文字が多く、草書を多用とも思ったが、結局草書六字、行書八字とした。連綿線も少なくした。余計な線はなるべく避けるようにとの思い。画数の多い「霜・澗・聲」は草書に、画数の少ない「松・急・丹」は行書とした。墨継ぎは「静」と「鶴」。「聲・静・鶴」は用例多く、字典参照のこと。

訳：霜が碧い谷川におり、松風の音が静かにひびいている。にわかに雨になり、峰々に鶴の鳴き声とする。

予告 (十月二十二日締切) 一聲山鳥啼 幽夢忽喚醒 起來開竹扉 日上中峰頂 (釈英)

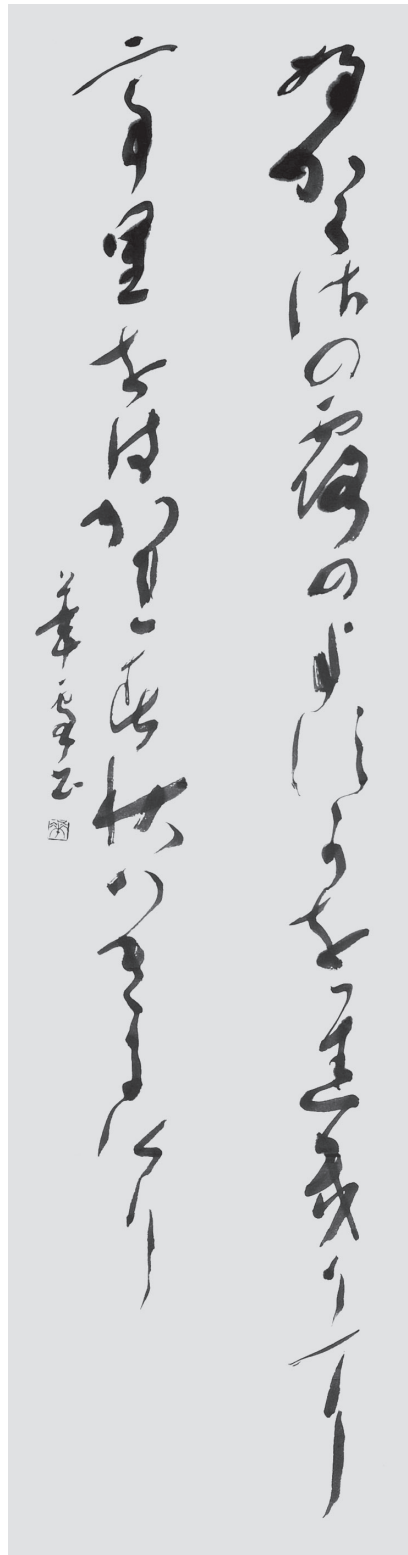
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

A

平岡華雪先生書

深草の露のよすがを契にて里をばかれず秋は来にけり(新古今和歌集)  
婦か久佐の露のよ須可を遅幾り耳亭里をはか連春秋八き尔介り

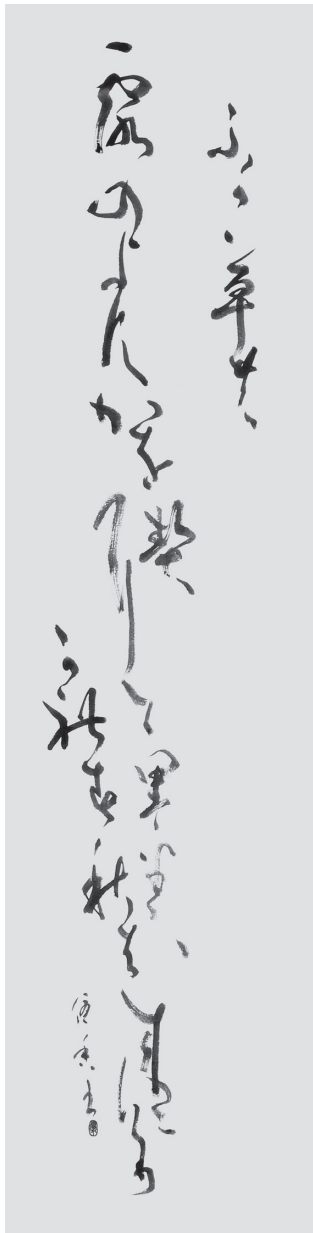
撰政太政大臣



B

本澤優香先生書

ふ草農露のよ須かを契耳て里乎八可禮春秋者来二介利



撰政太政大臣 藤原良経

(ふじわらのよしつね)。平安時代末期から鎌倉時代前期にかけての公卿。和歌所寄人筆頭。建仁二年(一一〇二年)十一月、土御門天皇の撰政となり、建仁四年(一一〇四年)には従一位、太政大臣。元久三年(一一〇六年)三月七日深夜に頓死。享年三十八。新古今集仮名序執筆者。新古今集入集七十九首。西行・慈円に次ぎ第三位。

学び方

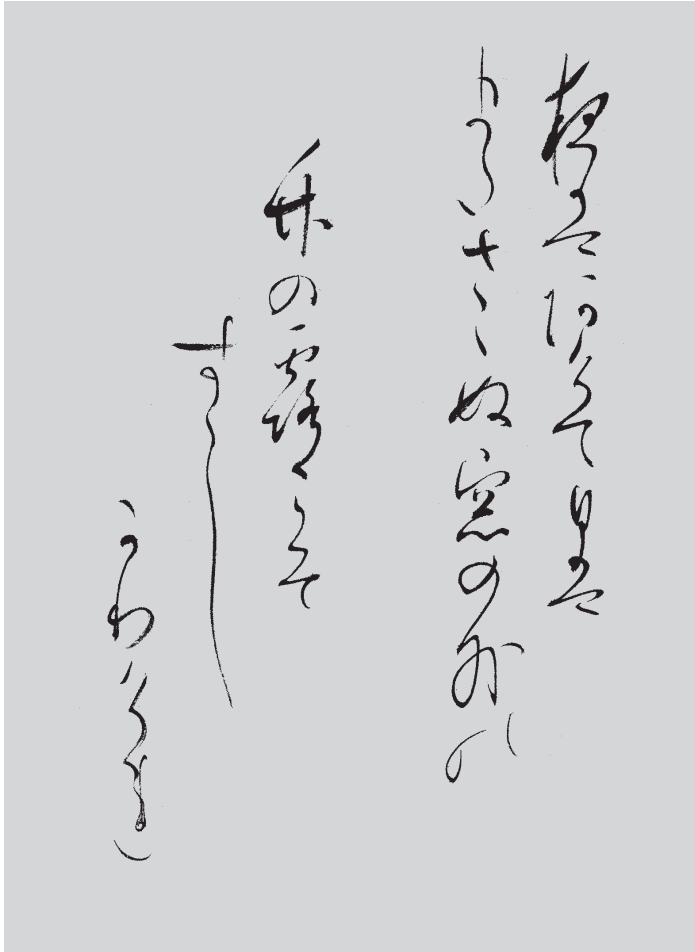
- 歌意：深い草に露が置くというわずかな繋がりや宿縁として、この荒れた深草の里を見捨てずに秋風が訪れ、秋は来たことだ。
- 作品について
- 今回は、字粒を小さめにしての構成にしました。
- 納得できる潤渇を表現するには、様々な条件によって変わってきます。色々と工夫して、研究を重ねて下さい。
- 一旦、落筆するとなかなか難しいですが、常に全体と部分の関係を考えながらの運筆を心掛けて下さい。
- 墨継ぎは四行目「か(可)」でしました。隣の行との対比に留意して、添わせるように筆を運びました。

予告 (十月二十二日締切)

ふるさととはつめたき土のにほひしてこほろぎのなくつす月夜かも (前田夕暮)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

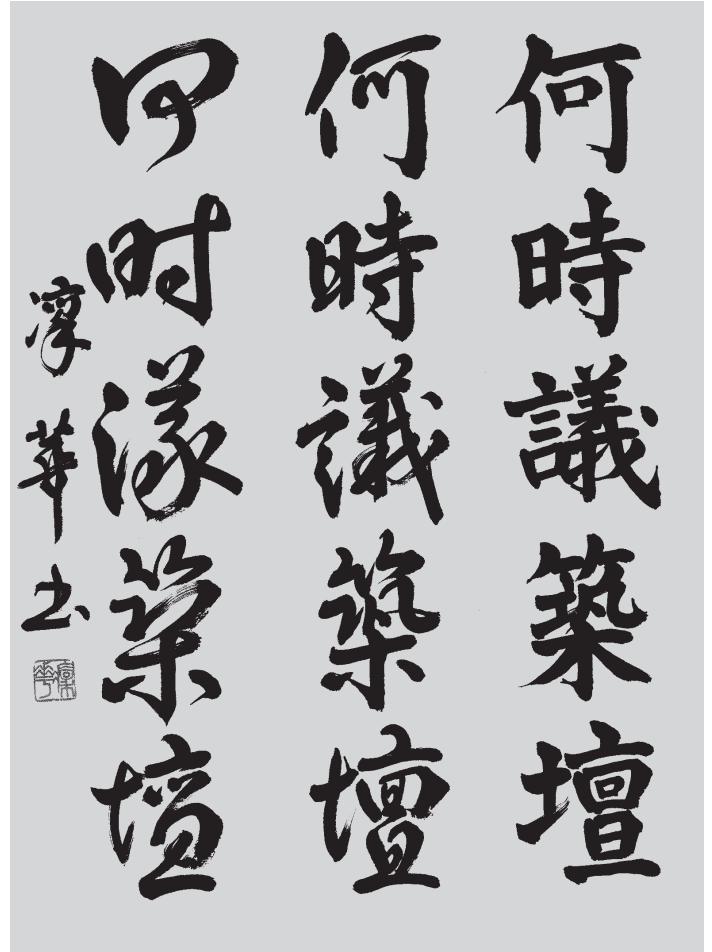
昇試第二部かな課題 (九月二十二日締切)



高塚竹堂先生書

夜はあけて日はまだささぬ窓の外竹の露こそすしかりけれ  
 夜盤阿介て日盤まささぬ窓の外能竹の露こそすし可利介連

昇試第二部漢字課題 (九月二十二日締切)



勝間凜華先生書

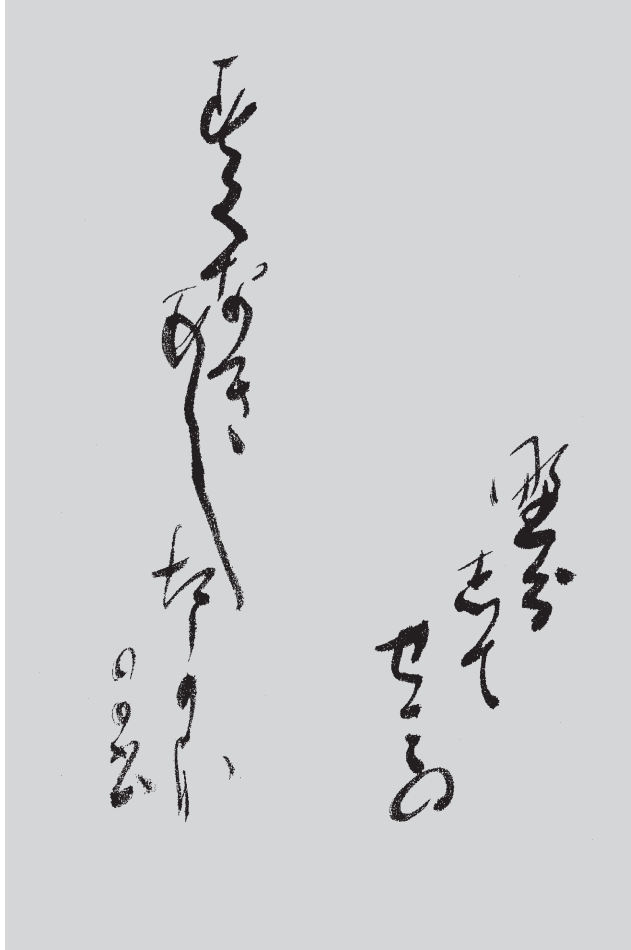
何時議築壇(杜甫)

何れの時か築壇を議せん

訳：大将を任命するための壇をきすく相談をする日は、いつのことであろうか。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

昇試第三部かな課題 (九月二十二日締切)



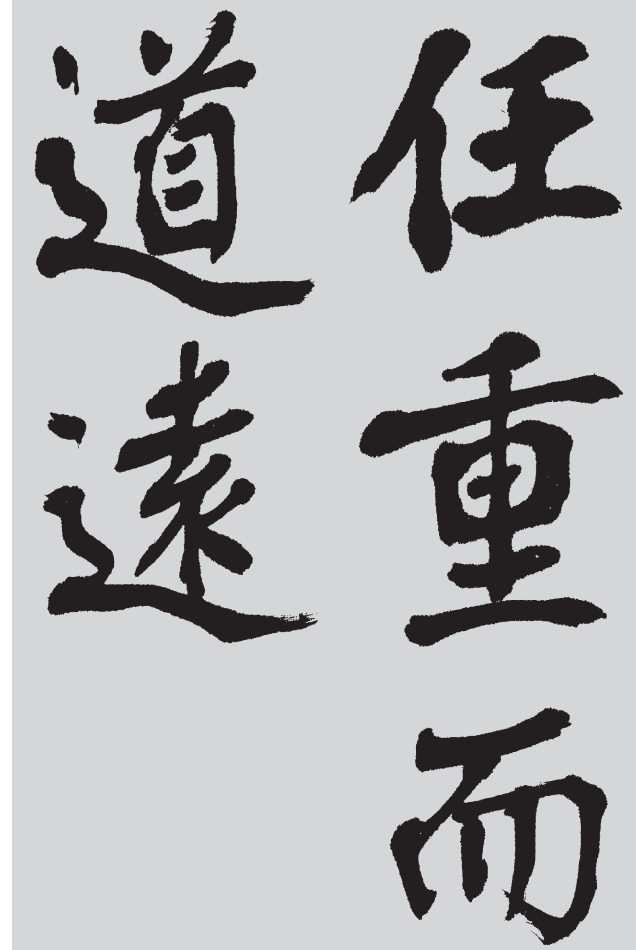
(10月22日締切) 秋風に倒れしものゝひびきかな (泊月)

平岡華雪先生書

野分して蟬の少なきあした哉 (子規)  
野分してせ三の春久なきあした可那

〈表出に工夫を〉  
右群は三段階の漢字二字、かな二字、かな三字それぞれの特徴を生かして。左群は「寄せ」の二行にプラス「落款」。「あし」で墨つき、潤濁・太細等による変化を工夫して効果的に。

昇試第三部漢字課題 (九月二十二日締切)



(10月22日締切) 秋聲天地間 (陸游)

平岡華雪先生書

任重<sup>しかし</sup>而<sup>し</sup>て道遠<sup>し</sup>。(論語)  
訳：責任は重く、しかも道程は遠い。道義をになう者の覚悟をいう。

〈之繞に工夫〉  
「道、遠」の主画。運筆にリズムをつけて。点からうねり、うねりから・印へ一気に、この反動が大切。

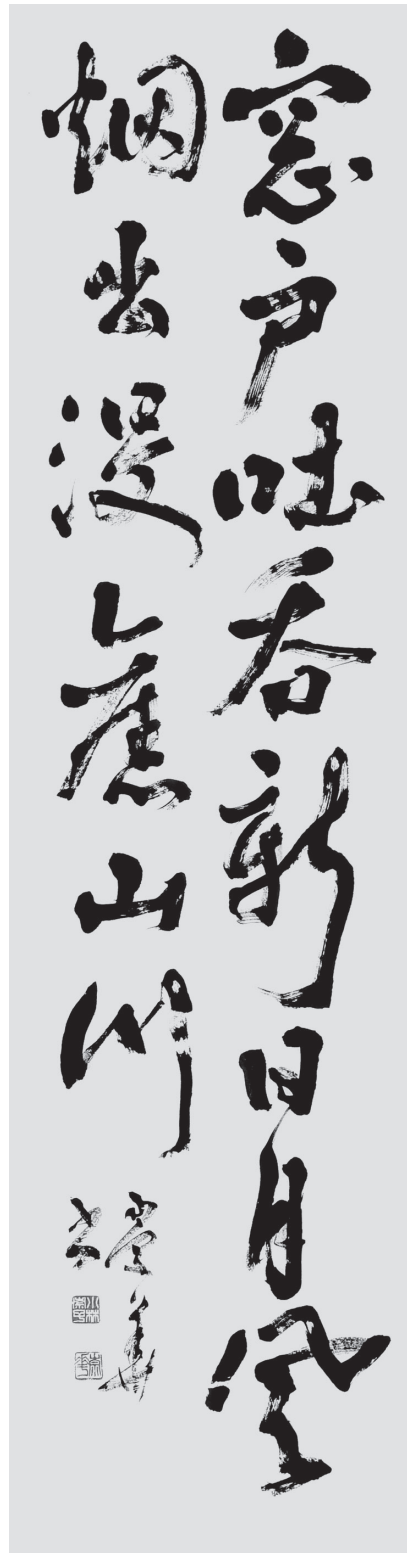


◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

昇 試 随 意 参 考

小林 崇 華 先 生 書

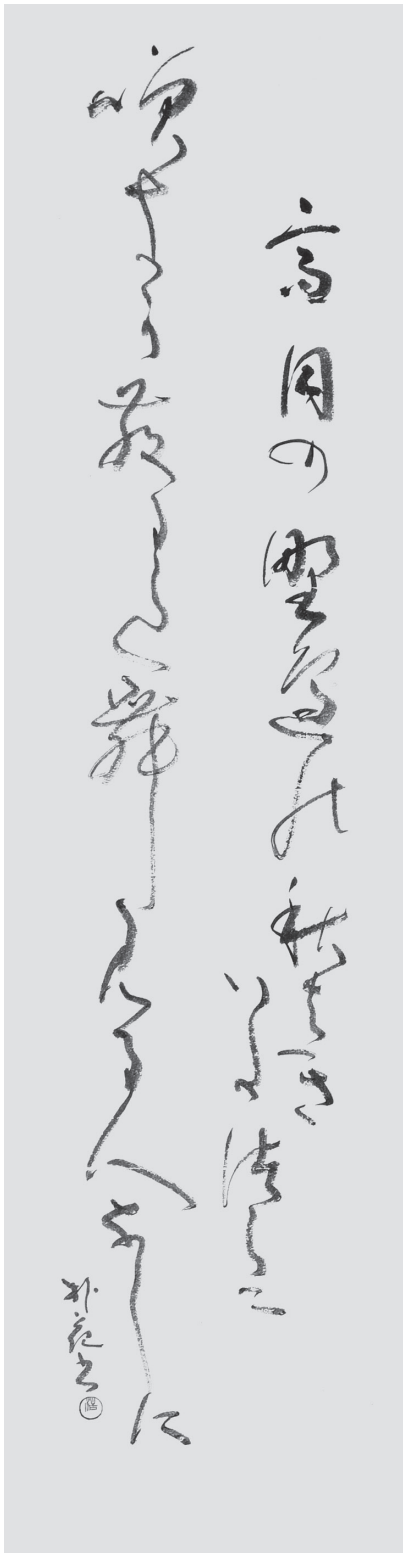
窓戸吐吞新日月 風烟出沒舊山川（葛立方）  
窓戸吐吞新日月、風烟出沒す旧山川。



訳：一個の窓には新しい日月を出入させる。風やかすみに景色が見えかくれる見馴れた昔ながらの山河である。

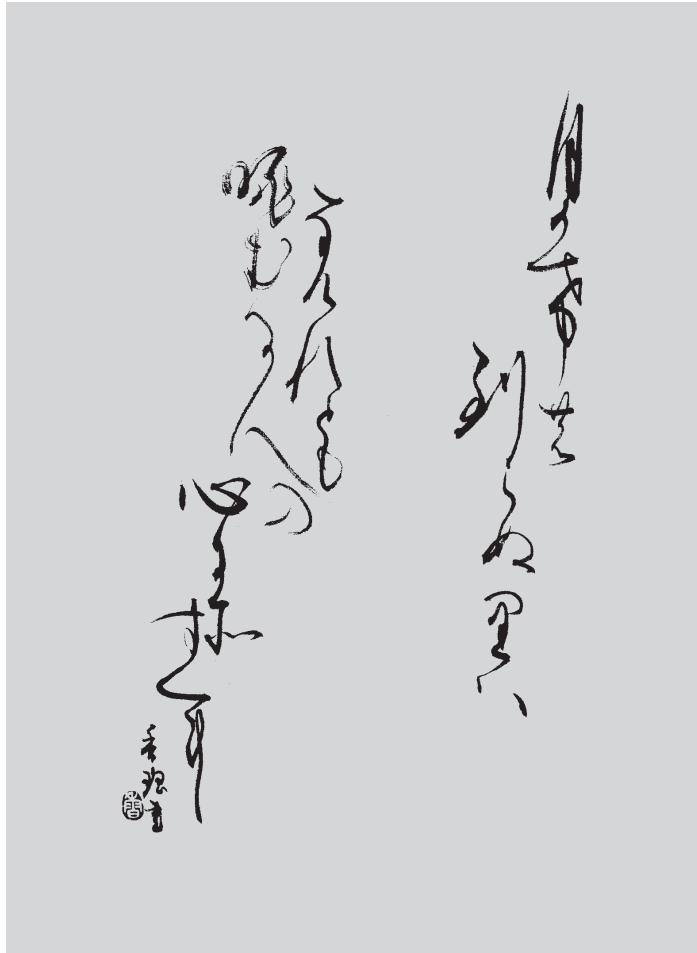
向 山 朴 花 先 生 書

高円の野辺の秋萩いたづらに咲きか散るらむ見る人なしに（万葉集 笠金村）  
高円の野邊能秋者きい多徒ら二咲支可散るら舞見る人なしに



◆注 意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

昇試随意参考

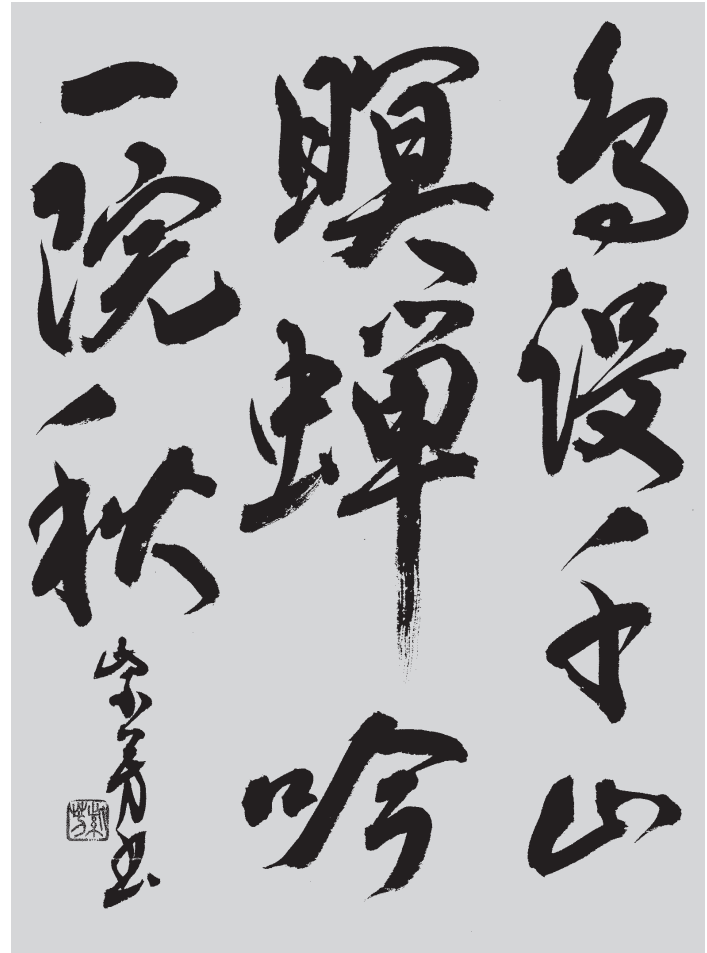


内藤香瑤先生書

月影の到らぬ里はなけれども眺むる人の心にぞ住む (源空)  
 月可希農到らぬ里八奈介れとも眺むる人の心尔所す牟

訳：夕暮の鳥は遠く飛び去って影なく千山は暗くなり、蟬は鳴いて小庭の秋を語る。

昇試随意参考



高橋紫芳先生書

鳥没千山 蟬吟一院秋 (陸放翁)  
 鳥は没す千山の暝、蟬は吟ず一院の秋。

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。



# 硬筆部課題参考

(九月二十二日締切)

赤木典子先生書

川上香蓉先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

教養は培養である。それが有効で  
 あるためには、まず生活の大地に食  
 入ろうとする根がなくてはならぬ。

海の静かさは山から来る。町の後ろの  
 山へ廻った陽がその影を徐々に海へ  
 広げてゆく。町も磯も今は休息の  
 なかにある。

◆注意

課題1 (初段階以上)  
 海の静かさは山から来る。町の後ろの山へ廻った陽がその影を徐々に海へ広げてゆく。町も磯も今は休息のなかにある。  
 『海』 梶井基次郎

- (1) 自分の段級に合った課題を選択
- (2) ペンまたはボールペン (黒色) を使用のこと。青インクは不可
- (3) 段級欄は本人が記入 (色は黒)
- (4) はじめて出品される方は私製の紙 (3×4 cm位に) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段階以下)  
 教養は培養である。それが有効であるためには、まず生活の大地に食入ろうとする根がなくてはならぬ。  
 『樹の根』 和辻哲郎